

西国一の大港を支えた商人たち

下関市立歴史博物館企画展

令和7年 4月18日(金) → 6月29日(日)

- | 開館時間 | 9時30分～17時00分 [入館は16時30分まで]
- | 休館日 | 月曜日 ※5月5日(月)は開館し5月7日(水)が休館
- | 駐車台数 | 一般26台(有料)、身障者用2台(無料)
- | 観覧料 | 一般210円 [160円]、大学生等100円 [80円]
- ※ [] 内は20名以上の団体料金
- ※ 下関市内に居住する65歳以上の方は観覧料100円(要公的証明書)
- ※ 18歳以下の方、障害者手帳をお持ちの方は観覧料無料(要公的証明書)

企画展関連講座

江戸時代の赤間関における経済活動

日時 6月18日(水)・6月21日(土)
 ※各日10:30～11:30 ※内容はいずれも同じ。※資料代300円
 場所 下関市立歴史博物館 ガイダンス交流室
 予約 5月16日(金) 9:30 から博物館受付、または電話にて受付開始

Shimonoseki City Museum of History
下関市立歴史博物館

〒752-0979 下関市長府川端二丁目2番27号
 TEL. 083-241-1080

西国一の大港を支えた商人たち

港町赤間関(下関)が、その長い歴史の中でも特筆すべき賑わいを見せたのが江戸時代です。江戸時代になると、国内の安定によって全国規模の海運網が整備され、下関海峡(関門海峡)では多くの航路が交わりました。全国各地の人・モノ・情報が集まることとなった赤間関では、多くの商人が躍動することとなります。

赤間関商人の中心として本陣と大年寄を務めたのが、阿弥陀寺町の本陣伊藤家と西南部町の佐甲家です。両家の他、赤間関では問屋を始めとする多くの商家が軒を連ね、多彩な商売が展開されました。

また、赤間関は、政治活動や文化交流の舞台でもあり、商人たちの活躍の場は経済活動だけに留まりませんでした。幕末には、多くの志士が赤間関商人との交流を持ったことが知られます。

本展覧会では、赤間関商家に伝来した資料などを通じて、「西国一の大港」と称されるほどの繁栄を遂げた江戸時代の赤間関の様相と、その赤間関を舞台に活躍した商家の姿を紹介します。

西国一の大港の姿

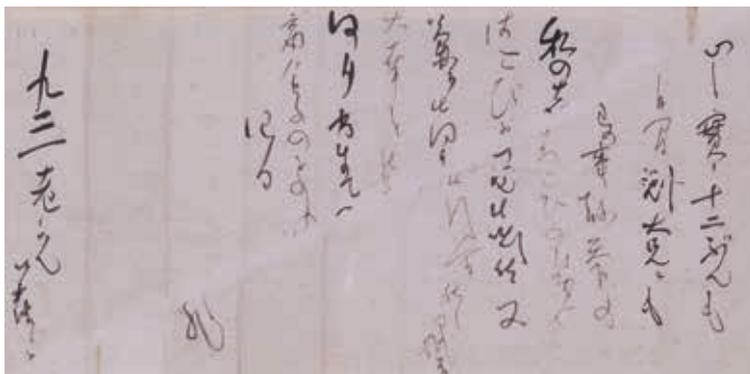


伝狩野晴筆 赤間関絵図(個人蔵/当館寄託)



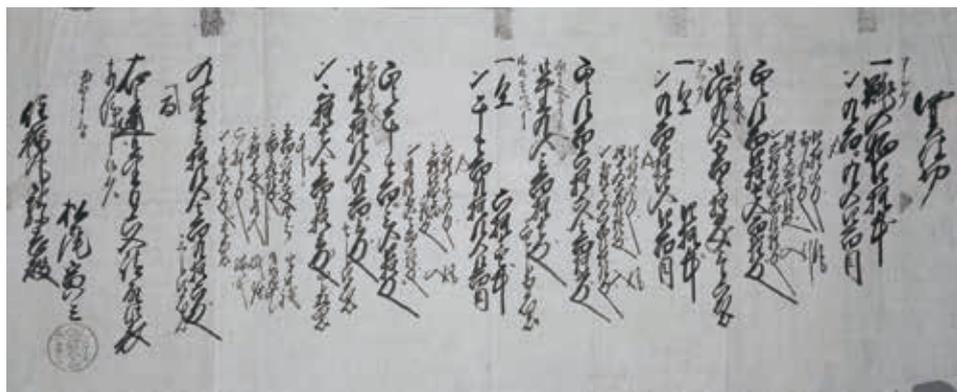
金彩碗皿(個人蔵/当館寄託)

シ
ー
ボ
ル
ト
か
ら
の
贈
り
物



坂本龍馬書状 國香家文書(当館蔵)

龍
馬
が
赤
間
関
商
人
と
と
も
に
見
た
夢



買仕切 小林家文書(当館蔵)

西
国
一
の
大
港
で
展
開
さ
れ
る
商
取
引



高杉晋作持仏(個人蔵/当館寄託)

高
杉
晋
作
の
形
見



江戸時代、西国一の大港と呼ばれるまでに発展した赤間関(下関)の商家に伝来した貴重な資料を紹介します。外国人からの贈り物や幕末の有志志士の書状は必見です。

担当学芸員 松田 和也

下関市立歴史博物館
〒752-0979 山口県下関市長府川端二丁目2番27号
TEL.083-241-1080 <https://www.shimohaku.jp>

交通のご案内

●公共交通機関

JR下関駅

長府・小月・宇部・秋芳・長門・西市方面行きバス

所要時間約25分

JR新下関駅

バス停「城下町長府」を経由する「マリンランド」または「下関駅」行きバス

所要時間約20分

JR長府駅

バス停「長府駅前」から下関方面行きバス

所要時間約10分

●自動車

下関I.C

壇の浦方面へ進み、国道9号線経由 所要時間約20分

長府方面へ進み、国道2号線経由 所要時間約15分

バス停「城下町長府」
徒歩10分

下関市立歴史博物館

